

作成日 2021/11/16

## 安全データシート

### 業務用食器洗浄機洗剤・さらり

#### 1. 化学品及び会社情報

##### 化学品の名称 :

製品名称 : 業務用食器洗浄機洗剤 さらり

製品番号 (SDS NO) : Professional\_dishwasher\_detergent-1

##### 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 食器洗浄機洗剤

使用上の制限 : 業務用専用

##### 供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 有限会社 創美社

住所 : 山梨県甲斐市宇津谷873

電話番号 : 0551-20-0185

FAX : 0551-20-0186

緊急連絡先電話 : 090-3243-2275

#### 2. 危険有害性の要約

##### 化学品のGHS分類、GHSラベル要素

##### GHS分類

###### 健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分 4

皮膚腐食性/刺激性 : 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 1

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分 1

(注) 記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない

##### GHSラベル要素



注意喚起語:危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

臓器の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

注意書き

安全対策

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。

保護手袋/保護衣/保護面を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

特別な処置が必要である。

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。  
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。  
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 口をすすぐこと。  
 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。  
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

#### 貯蔵

施錠して保管すること。

#### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別 :

##### 混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
水酸化カリウム	1310-58-3	10	1-369
エタノール	64-17-5	＜0.1	2-202
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	非公開	＜0.1	非公開
ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	非公開	＜0.1	非公開
重炭酸ナトリウム	144-55-8	0.1	1-164
酵素	非公開	非公開	非公開
ミネラル	非公開	非公開	非公開
水	7732-18-5	残量	-

注記: これらの値は、製品規格値ではありません。

この成分表に記載なき成分は、日本政府によるGHS分類結果一覧に収載されていません。

#### 危険有害成分

##### 毒物及び劇物取締法「劇物」該当成分

水酸化カリウム

##### 安衛法「表示すべき有害物」該当成分

水酸化カリウム

##### 安衛法「通知すべき有害物」該当成分

水酸化カリウム

### 4. 応急措置

#### 応急措置の記述

##### 一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当を受けること。

直ちに医師に連絡すること。

##### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

##### 皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当を受けること。

##### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当を受けること。

### 飲み込んだ場合

口をすぐのこと。無理に吐かせないこと。  
意識のある場合はコップ1 - 2杯の水を飲ませる。  
意識のない被災者には何も飲物を与えてはならない。  
直ちに医師に連絡すること。

### 急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。

### 医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。  
この製品自体は燃焼しない。

#### 使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

### 特有の危険有害性

特有の危険有害性データなし

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。  
霧状水により容器を冷却する。  
安全に対処できるならば、製品容器を火災危険区域から移動すること。  
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。  
回収が終わるまで充分な換気を行う。  
適切な保護具を着用する。  
漏出物に触れたり、その上を歩いたりしないこと。

### 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。  
下水、排水中に流してはならない。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。  
多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。  
回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

### 二次災害の防止策

汚染箇所を水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)  
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

**(注意事項)**

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

**安全取扱い注意事項**

保護手袋/保護衣/保護面を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

**接触回避**

酸との接触を避けること。

**衛生対策**

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

取扱い後はよく手を洗う。

**保管****安全な保管条件**

容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

施錠して保管すること。

**(避けるべき保管条件)**

飲食物、動物用飼料から離して保管する。

乳幼児の手の届かないところに保管すること。

**安全な容器包装材料データなし****8. ばく露防止及び保護措置****管理指標**

管理濃度データなし

**許容濃度**

(水酸化カリウム)

日本産衛学会(1978) (最大値) 2mg/m<sup>3</sup>

(水酸化カリウム)

ACGIH(1992) STEL: 上限値 2mg/m<sup>3</sup> (上気道、眼及び皮膚刺激)

(エタノール)

ACGIH(2009) STEL: 1000ppm (上気道刺激)

**ばく露防止****設備対策**

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

**保護具****呼吸用保護具**

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

**手の保護具**

保護手袋を着用する。推奨材質: 非浸透性もしくは耐化学品ゴム

**眼の保護具**

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

**皮膚及び身体の保護具**

保護衣を着用する。

**9. 物理的及び化学的性質**

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体  
色：淡いブルー  
臭い：微臭  
臭いの閾値データなし  
融点/凝固点データなし  
沸点又は初留点データなし  
沸点範囲データなし  
可燃性(ガス、液体及び固体)：燃焼しない  
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：適用外  
引火点：燃焼しない  
自然発火点：適用外  
分解温度データなし  
pH：13.46  
動粘性率データなし  
溶解度：  
    水に対する溶解度：混和する  
    溶媒に対する溶解度データなし  
n-オクタノール/水分配係数データなし  
蒸気圧データなし  
蒸発速度データなし  
密度及び/又は相対密度データなし  
相対ガス密度(空気=1)データなし  
粒子特性：適用外

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

反応性データなし

### 化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

### 危険有害反応可能性

危険有害反応可能性データなし

### 避けるべき条件

避けるべき条件データなし

### 混触危険物質

酸

### 危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物データなし

## 11. 有害性情報

### 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

##### 急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

rat LD50=273mg/kg (SIDS, 2004)

##### 労働基準法:疾病化学物質

水酸化カリウム

### 局所効果

#### 皮膚腐食性/刺激性

[pHに基づく分類根拠]

11.5 <= pH であることから、皮膚腐食性/刺激性:区分1に分類した。

## [日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

ラビット/ヒト 腐食性 (SIDS, 2004; ECETOC TR66, 1995; 産衛学会許容濃度の提案理由書, 1978; PATTY 6th, 2012)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

## [pHに基づく分類根拠]

11.5 &lt;= pH であることから、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分1に分類した。

## [日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

ラビット 腐食性 (SIDS, 2004; 産衛学会許容濃度の提案理由書, 1978; PATTY 6th, 2012)

(エタノール)

ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2), 1998 et al)

呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

(エタノール)

IARC-Gr.1: ヒトに対して発がん性がある

(エタノール)

ACGIH-A3(2009): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

## [区分1]

## [日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2001; SIDS, 2004; PATTY 6th, 2012)

## [区分3(気道刺激性)]

## [日本公表根拠データ]

(エタノール)

気道刺激性 (PATTY 6th, 2012)

## [区分3(麻醉作用)]

## [日本公表根拠データ]

(エタノール)

麻酔作用 (PATTY 6th, 2012; SIDS, 2005)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

## [区分1]

## [日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2001)

誤えん有害性

## [区分1]

## [日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

cat. 1; (ACGIH 7th, 2001; SIDS, 2004)

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)

## [日本公表根拠データ]

(重炭酸ナトリウム)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) EC50=1020mg/L/48hr (SIDS, 2004)

(エタノール)

藻類 (クロレラ) EC50=1000mg/L/96hr (SIDS, 2005)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(重炭酸ナトリウム)

甲殻類 (オオミジンコ) NOEC (繁殖, 生存) >576mg/L/21days (SIDS, 2004)

(エタノール)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属) NOEC=9.6mg/L/10days (SIDS, 2005)

水溶解度

(水酸化カリウム)

110 g/100 ml (25°C) (ICSC, 2010)

(重炭酸ナトリウム)

8.7 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2004)

(エタノール)

混和する (ICSC, 2000)

残留性・分解性

(エタノール)

急速分解性あり (BODによる分解度: 89% (既存点検, 1993))

生体蓄積性

(エタノール)

log Pow=-0.32 (ICSC, 2000)

土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

### 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 1814

正式輸送名 :

水酸化カリウム溶液

分類または区分 : 8

容器等級 : II

指針番号: 154

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号 : 1814

正式輸送名 :

水酸化カリウム溶液

分類または区分 : 8

容器等級 : II

## IATA 航空危険物規則書

国連番号 : 1814

正式輸送名 :

水酸化カリウム溶液

分類または区分 : 8

危険性ラベル : Corrosive

容器等級 : II

特別規定番号 : A3; A803

## 環境有害性

MARPOL条約附属書III - 個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質 (該当/非該当) : 非該当

MARPOL条約附属書V - 廃物排出による汚染防止

特定標的臓器毒性, 反復ばく露: 区分1 該当物質

水酸化カリウム

## 特別の安全対策

特別の安全対策データなし

## バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)

水酸化カリウム(Y-256)

有害液体物質(Z類)

エタノール(Z-021)

## 国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

腐食性物質 分類8

航空法

腐食性物質 分類8

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

劇物(令第2条)

水酸化カリウム(10%)(法令番号 65)

労働安全衛生法

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

水酸化カリウム(別表第9の316)

名称通知危険/有害物

水酸化カリウム(別表第9の316)

腐食性液体(規則第326条)

水酸化カリウム

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法に該当しない。

化審法に該当しない。

水質汚濁防止法

指定物質

水酸化カリウム

法令番号 8

## 16. その他の情報

### 参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN  
IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)  
IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)  
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)  
2021 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
JIS Z 7252 : 2019  
JIS Z 7253 : 2019  
2021 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)  
Supplier's data/information  
GESTIS-Stoffdatenbank  
Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によつて改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであつて、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。  
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和2年度(2020年度))です。